

1章：なぜ、中学受験なのか？

はじめにでも書いたように、個人的な感覚として、親が子どもにべったり関わることが出来る時期は小学校までのように、感じている。特に父親との関係は男女を問わず、難しくなってくるように思う。

もう、10年以上前に読んだ書籍『父親が教えるつるかめ算』（三田誠広/著）の中で、『算数は「拷問」ではなく、子どもの論理性や自制心を養い、父親の人生観を子どもに伝える格好のツールである。』という一文があり、算数は父親が教えた方が良かったといった内容も書いてあったように記憶している。確かに、総じて理系の教科は女性より男性の方が得意なように私も思う。特に、受験数学は難関校であればあるほど、なぞなぞを解く時のような経験に基づいた閃きが必要になる。小さい頃、なぞなぞを楽しそうに出してくる子どもは男の子に多いように思う。自分もそうだったし、わが家は息子2人、娘2人の4人兄弟姉妹だが、やはり、男の子の方が好きだったように思う。さらに、個人的には社会科についてもやはり父親がサポートする方が良いのではと経験上思う。最近では歴女と言った言葉もあるぐらいなので、歴史好きな女性も多いのだろうが、戦国時代に詳しい男性（父親）はザラにいるのではないか。地理についても『地図の読めない…』が流行ったように、女性よりも男性の方が得意な分野だと感

じる。日々の仕事で外に出て、出張で日本や世界各地をウロウロすることの多

い男性は自然と地理的感覚が優れているように思う。そういませんか？

もちろん、母親の役割も大きい・・・

※全文をご覧になりたい方は小冊子プレゼントフォームへお進みください。